

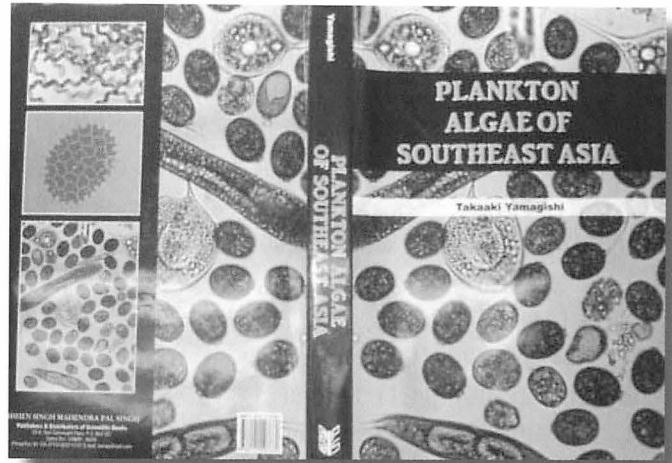
## 書評・新刊紹介

Takaaki Yamagishi 著

# PLANKTON ALGAE OF SOUTHEAST ASIA

生物多様性の保全は人類の存続にもかかわる地球規模の課題である。しかし、実際にどのような生物がどこに分布するのかという基本的情報は必須であるにもかかわらず、淡水微細藻類においては希薄である。熱帯は生物多様性の宝庫と一般的には考えられるが、南アジアのボルボックス目の淡水微細藻類に関しては Iyengar & Desikachary (1981, *Volvoclaes*, ICAR) に詳しいが、ほとんどが転載されたスケッチと記載であり、実体が推測しにくい分類群が多い。

今回の山岸高旺先生の出版された本書は、タイ、マレーシア、カンボジアの藍藻、黄金色藻、黄緑色藻、渦鞭毛藻、ミドリムシ藻、緑藻、総計 670 分類群の分類学的リストである。特にミドリムシ藻に関しては 13 新分類群を含む合計 316 分類群が記載されており、本群の南アジアにおける計り知れない多様性を垣間見ることができる。また、1 分類群ごとに先生ご自身の採集と観察を基本とした淡水藻類の写真・スケッチ・英文記載を基本として、原記載等の重要文献・分布情報を伴っているので、それぞれの種の実体が客観的に把握でき、分類学的研究に非常に便利である。この中で 17 の新分類群が予備的に記載されており、今後の正式出版が予告されている。最後の章は故金網善恭先生が正式出版してなかったデスミッド藻類のいくつかの分類群のラテン語記載を含んでいる。門レベルで多岐にわたる淡水藻類のこのような出版物を一人の研究者が完成してしまう程、今年「米寿」を迎える山岸先生はお元気であり、その専門分野の広さは到底後継者が追いつくことができないのは明白である。本書は淡水藻類の分類や生態に関わるすべての研究者にとって重要な文献となるであろう。ただひとつ気になるのは、私が 1992 年に山



Bishen Singh Mahendra Pal Singh,  
Dehra Dun, India. 16.5cm x 24 cm.  
249 pp. gr8vo. Hardcover.  
ISBN 978-81-211-0766-2  
2010 年, 売価 € 63.00 Euro  
(US \$ 86.31).  
Koeltz Scientific Books で販売

岸先生に献名した新属 *Yamagishiella* が使用されておらず、*Pandorina unicocca* となっているところである。これが先生のご謙譲かどうかは定かではない。

山岸先生の最近のお便りでは、まだまだ整理・出版されていないサンプルがあり、執筆にご多忙とのことである。従って、今回の出版は山岸淡水藻類分類学の集大成に向けての「ほんの一步」であり、今後も山岸先生のご活躍を期待します。

(東京大学・院理・生物, 野崎久義)



### 藻場とワレカラの心あたたまる絵本

藻場はさまざまな生き物が暮らす豊かな小宇宙ですが、それを小さな子どもたちに伝えるにはどうしたらよいのでしょうか？ワレカラが生きる藻場の世界について、子どもたちが自主的に関心を持つ機会はほとんどないかもしれません（すみません！）。そんな小さな生き物の「生きものがたり」を平易な文章とあたたかい絵で伝える素敵な絵本が出版されました。

筑波大学の青木優和先生が昨年に私家版として自費出版された絵本で、イラストレーターの畑中富美子さんが絵をお描きになっています。絵本の生き物というデフォルメされたイラストが多いのですが、ワレカラの形も海藻（ヤツマタモク）も正確に描かれています。にもかかわらず、あたたかみを感じる生き物たちに心が和む一冊です。

(編)

